

# 国際柔道連盟試合審判規定改正が競技内容に及ぼす影響への一考察

## －2017年～2019年の世界柔道選手権大会に着目して－

小山 泰輔 (埼玉大学)

### I. 目的

国際柔道連盟(以下、IJF)は、柔道競技(以下、柔道)が五輪競技としてあり続けるため、「観客、メディアにアピールする柔道」をスローガンに改革を進めている。国際柔道連盟試合審判規定(以下、IJFルール)改正も改革の一部である。IJFルール改正は、「投技」「固技」のテクニカルスコア(以下、得点)で勝敗が決着する「ダイナミック柔道」や「『一本』を目指す柔道」を促進することが目的である。

そこで、本研究ではリオデジャネイロ五輪後に開催された2017年～2019年の世界選手権を対象に、軽量級(73kg級)、中量級(90kg級)、重量級(100kg超)の3つに分けて2017年と2018年のIJFルール改正が競技内容に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。

### II. 方法

#### 1. 調査対象

2017年～2019年世界選手権男子3階級の全試合、計605試合を調査対象とした。

#### 2. 分析方法・分析項目

IJF公式動画サイト「IJF live」とIJF公式YouTubeアカウント「Judo」を用いて分析を行った。

分析項目には、男子全階級の「メダル獲得国と獲得数」および対象階級の「入賞者」「試合時間」「決着内容」「得点獲得技」「得点獲得時の組み手状態」の6つを取り上げた。

#### 3. 統計処理

分析項目の「試合時間」「決着内容」「得点獲得技」「得点獲得時の組み手状態」においてクロス表を用いて $\chi^2$ 検定を行った。2017年・2018年の比較、2018年・2019年および2017年・2019年の比較に分類して、検定を行った。検定の有意水準は、5%未満( $p < 0.05$ )を有意とし、有意な差が認められた場合には残差分析を行った。

### III. 結果と考察

#### 1. 試合時間について

「試合時間」は、IJFルール改正に抛らず、「本戦」が約75%、「ゴールドスコア方式による延長戦(以下、GS)」は約25%であった。試合時間詳細は、多くの選手が「本戦」の中盤から終盤にかけて決勝点を獲得していた。「GS」は短期戦での決着が大部分を占めた。IJFルール改正は試合時間には影響を与えていないことが示唆された。

#### 2. 決着内容について(表参照)

「決着内容」は、73kg級が2017年・2019年の比較で、90kg級と100kg超が2017年・2018年の比較で「一本」の増加と「技有」の減少による有意な差が確認された。IJFルール改正によって「一本」が増加し、「技有」が減少したことが明らかとなった。しかし、「反則」には減少傾向は確認されなかった。この結果から、今回のIJFルール改正は「『一本』を目指す柔道」の促進には寄与したが、「ダイナミック柔道」の促進には寄与していないことが示唆された。

#### 3. 得点獲得技について

「得点獲得技」は、IJFルール改正による変化はみられないことが明らかとなった。3階級全てでIJFルール改正に抛らず、「足技」による得点が最も多く記録された。続いて「手技」「後の先」の順に多く記録された。また、IJFルール改正によって技術が導入・発展した「立寝の際」や「後の先」は、2つの得点数を合計すると「手技」の得点数と近い値となった結果から、現代柔道の特徴を理解する上で必要不可欠な技術ではないかと考えられる。

#### 4. 得点獲得時の組み手状態について

「得点獲得時の組み手状態」は、IJFルール改正前後の73kg級と90kg級において「技有」の組み手状態に有意な差が確認された。「標準的でない組み手」が増加したことが要因である。その他は、IJFルール改正による影響を確認することが出来なかった。

表 IJFルール改正前後の「決着内容『一本』と『技有』」の変化

一本	2017	2018	2019	改正前後
-73kg	46.1%	65.9%	62.9%	増加
-90kg	29.7%	61.0%	65.3%	増加
+100kg	51.1%	81.8%	72.1%	増加

技有	2017	2018	2019	改正前後
-73kg	39.5%	24.7%	20.2%	減少
-90kg	54.1%	27.3%	18.1%	減少
+100kg	26.7%	6.8%	11.6%	減少

注)改正前は2017年、後は2018年・2019年を指す。